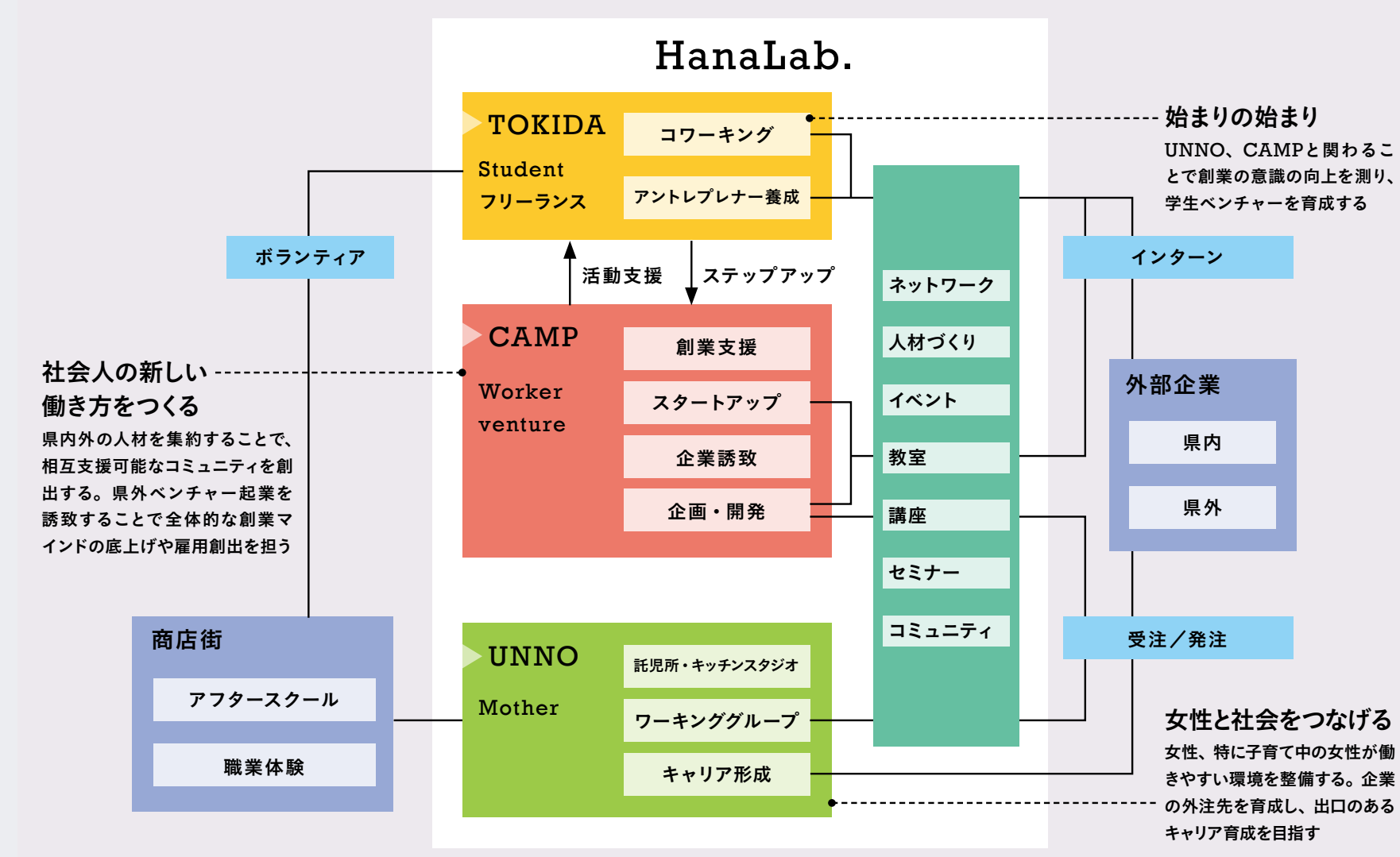


# HanaLab.とは？



## 10万人規模人材活用のインフラモデル



2012年2月に長野県内初のコワーキングスペースとして、HanaLab.第一号は上田市常田に誕生しました。産学官民が連携した希少なコワーキングスペースとして社会人や学生の働き方をサポートしてきました。それから3年。

はじめる前にスキルという武器を身につける「HanaLab.TOKIDA」、新たに女性の新しい働き方をつくる「HanaLab.UNNO」、県内外の多様な人材がつながりはじめる場所として最適な「HanaLab.CAMP」として3つの拠点が有機的につながり、刺激しあい、地域の人材活用のインフラを目指し、人と人、人と組織、組織と組織を柔軟に結びつける場として、新しい「コト」を地域に興していく組織です。

### ▶ 賞及び採択事業実績

賞	2013年	信州協働大賞優秀賞受賞
採択実績	2012年	内閣府「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」
	2015年	総務省「地域経済循環創造事業交付金事業」
	2015年	経済産業省「創業支援事業者補助事業」
その他	2014年	上田市「中心市街地活性化計画策定委員」
	2015年	上田市「地方創生計画策定委員」
	2016年	内閣府「地方活性化伝道師」

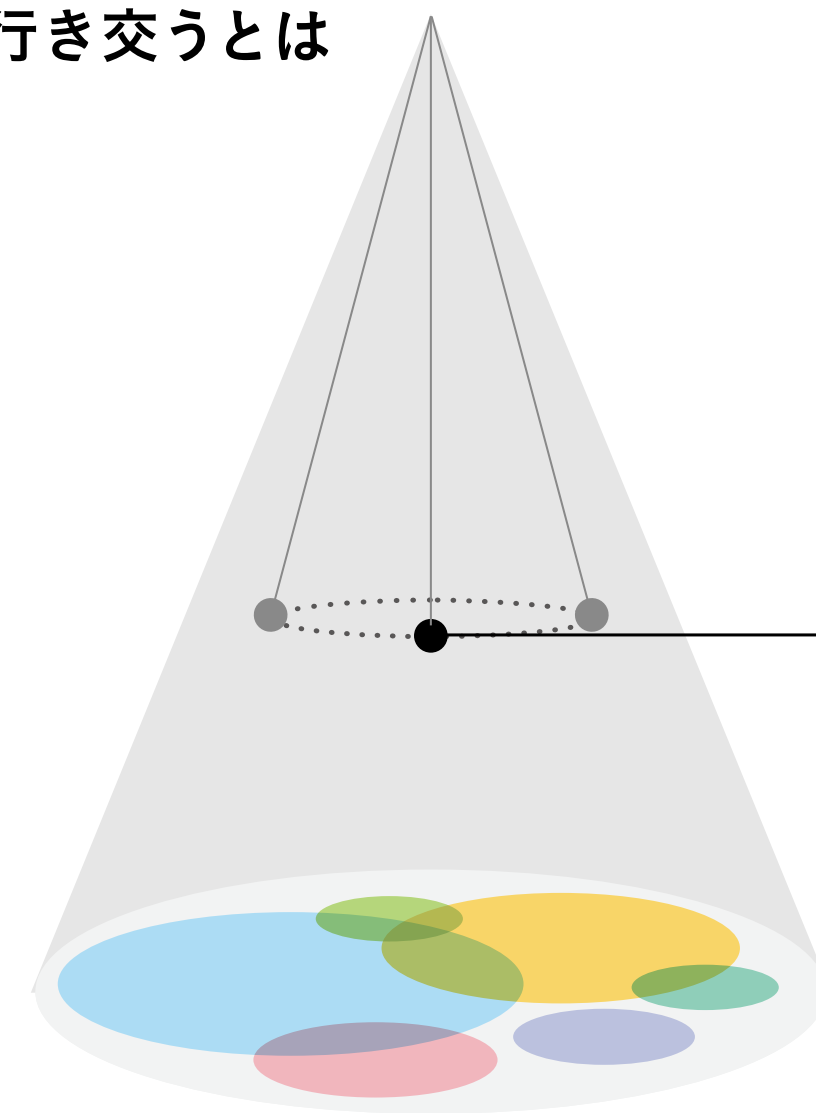
### ▶ 会社概要

運営	一般社団法人ループサンパチ
設立	2012年2月（2013年10月法人化）
本社	長野県上田市常田2-27-17
代表理事	井上 拓磨
事業内容	コワーキング事業、人材事業、メディア事業
社員数	6名
HP	<a href="http://hanalab.co">http://hanalab.co</a>
主要銀行	八十二銀行、上田信用金庫

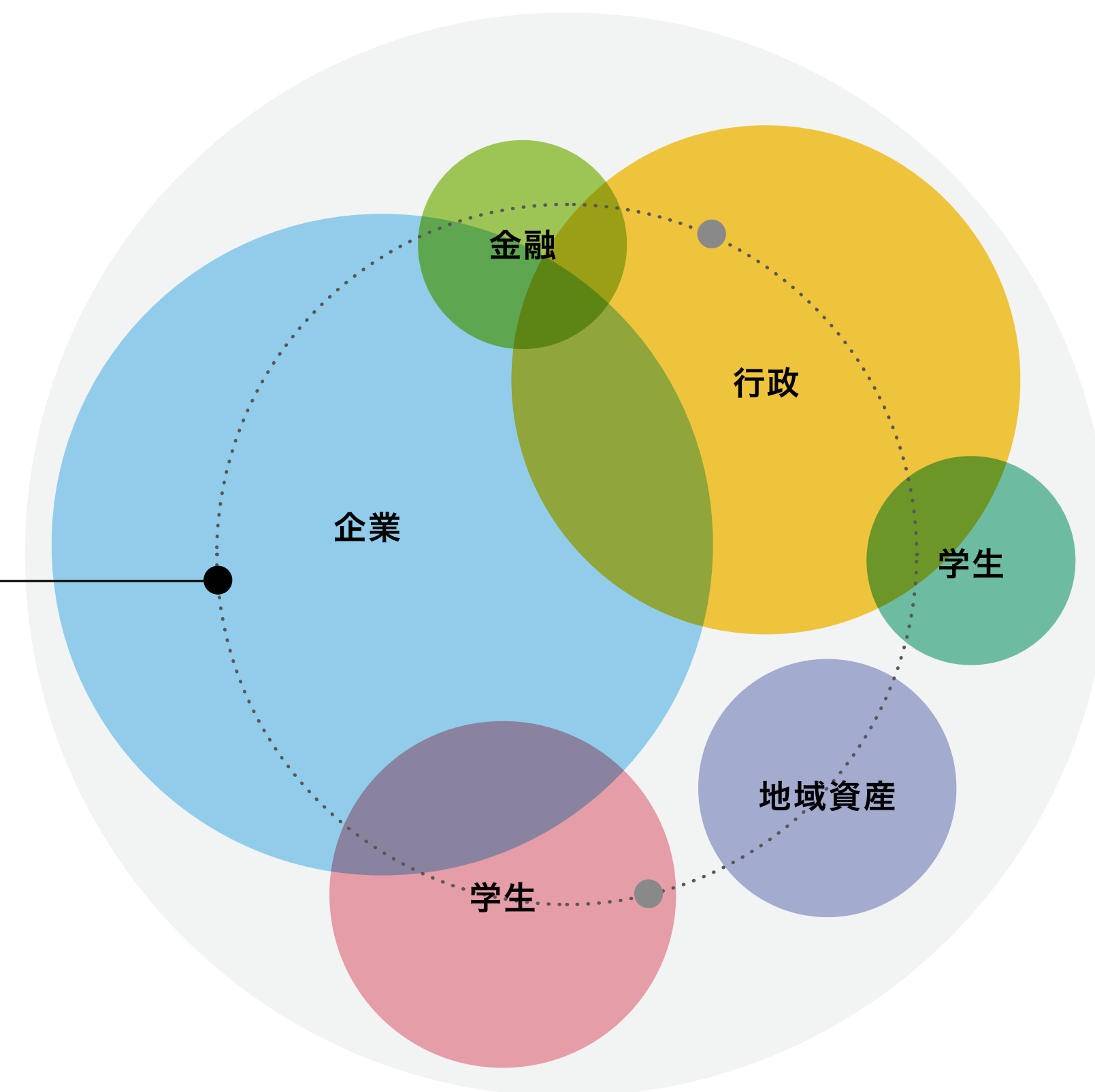
# ▶▶ HanaLab.が出来ること

新しい人材を生み出すには、  
既存の領域をまたぎ、振り子のように行き来しながら、  
それまでなかった関係性をつむぐことから始まります。  
既存のジャンルの壁を越えられるのがHanaLab.の強みです。

▶ 領域を行き交うとは



HanaLab



HanaLab.



コワーキングスペース

上田市

HanaLab.



社会課題をコワーキングの  
機能を活用して解決する存在

社会課題

社会課題

上田市

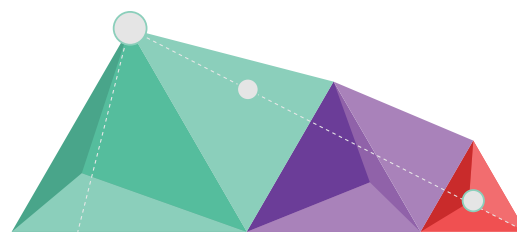
社会課題

社会課題

# VISION

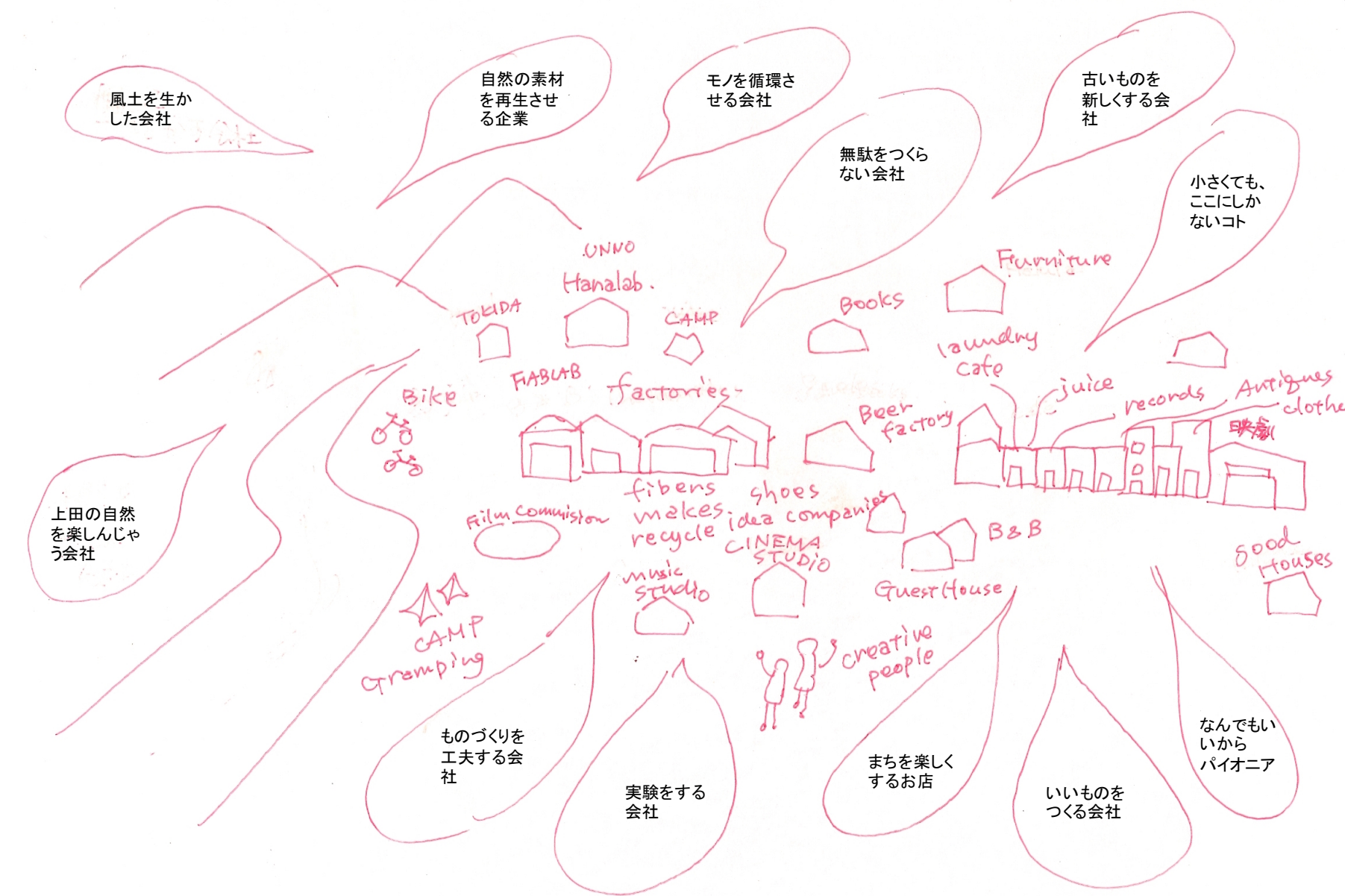
## 地方でワクワク働く社会づくり

大人が子供に自分の仕事をワクワク話すことが最大のキャリア教育であり、そういった大人達を増やすことが継続的な地方活性化の道と信じています。私たちは「働く」改革のため、「雇用の創出」を目的に創業支援・新規事業支援・企業誘致、「働き手の育成・確保」を目的に子育て中の女性の働き方改革やUIIターンに取り組んでいます。



# 上田の目指す形

なんだかいいね。と言われる企業の集合体へ



“利益を出すためだけでなく、社会をより良くするために競い合う企業が増えること”

## 参考例：Benefit Corporation (B-Corps)

企業の社会問題解決能力を信じ、株主だけでなくその他のステークホルダーに対しても等しく利益を生み出すことを企業の成功と定義することで、企業の社会的役割を変革していこう試み。世界全体が多くの社会問題を抱えており、政府やNPOだけでは問題に対峙しきれなくなっている昨今において、社会の企業に対する期待は徐々に変わりつつあります。従来のように株主利益の最大化だけを唯一の目的とするのではなく、企業は事業活動を通じて環境やコミュニティ、従業員といった他のステークホルダーに対する利益を生み出していくことが期待されています。

B-Corpsの利点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人材確保：社会にインパクトのある企業で働きたいと考える若者が増えている中、企業として同様の志を持つ人の確保が可能となった。</li> <li>2) 企業としてのブランド価値上昇：消費者やマーケットのベンダーまでもが、良い印象を得ることができるようになった。</li> <li>3) 同じ理想を掲げる企業との協業：志を共有できる企業との、積極的なコラボレーションがしやすくなった。</li> </ol>
------------	--

# 起こす機能と人材育成機能

起こす機能



育成機能

## コワーキングスペースを核に集積

### 起業を増やすのは「気持ち」の総量

今まで地方での起業が増えない要因は、人が集積せずアントレプレナーに気軽に触れられないことが大きい。景気と同じでそういった気持ちを持った人が増え集積することで起業が増えていく。

地域全体で集積させると、集積効果が薄れてしまうためコワーキングスペースという場に起業家、サテライトオフィス、地場産業などダイバシティを有するコミュニティを形成することで集積効果を起こす。

## 優秀な働き手を育成

### 地方は現代にあった人材が育っていない

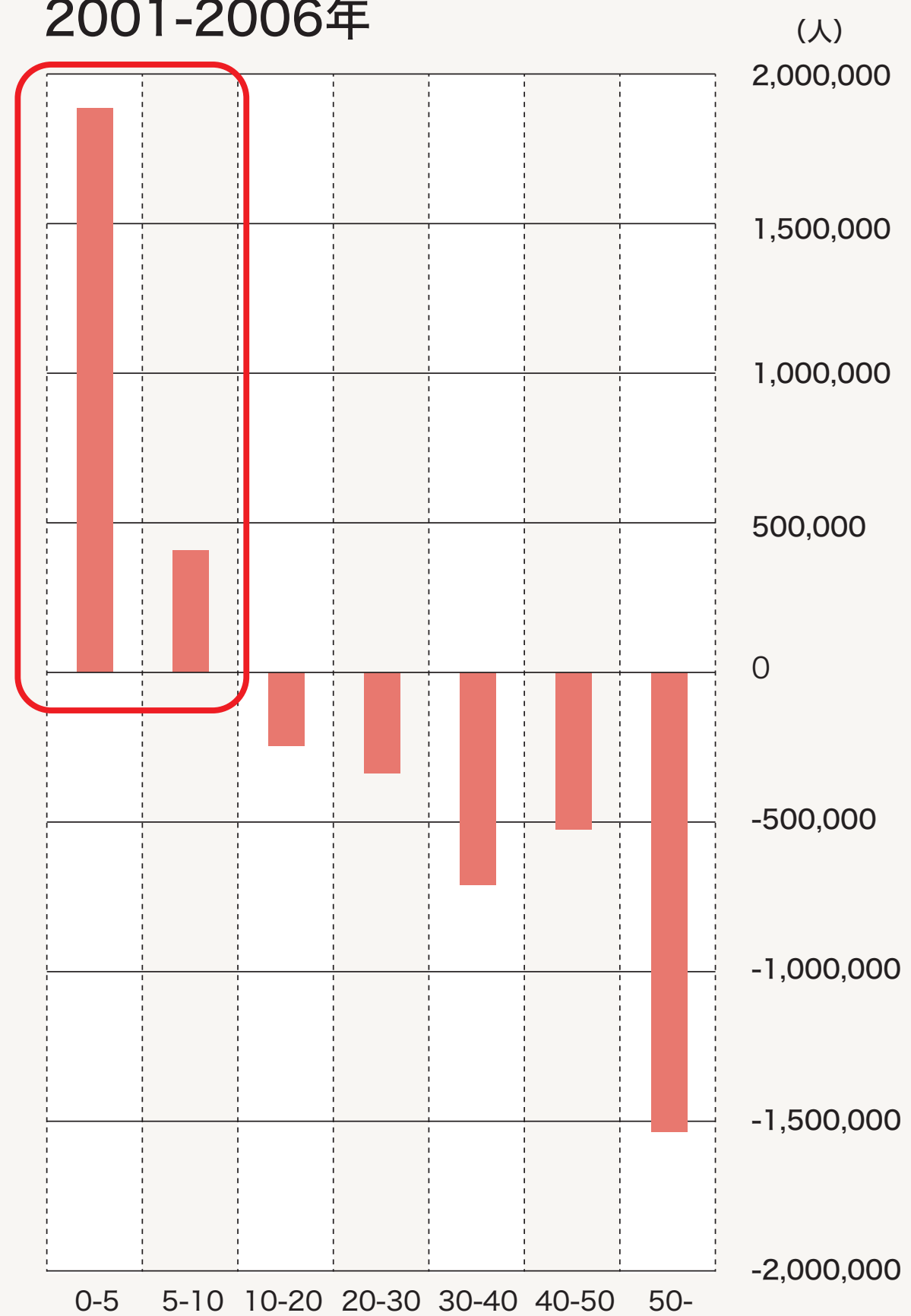
地方展開での失敗は人的資本要因が大きい。下請け製造業や建設業が主事業な構造はマニュアル型人材でITスキルが低い人材を育ててきた。大都市モデルと一番大きな違いは、そういった人材育成の仕組みをセットで行う点にある。特に地域には資質のある人材が子育て期の女性に多く眠っている。その層の育成を中心に行うことで、人材確保の課題解決をする。

# 地域の雇用力



雇用は  
新規企業が創出

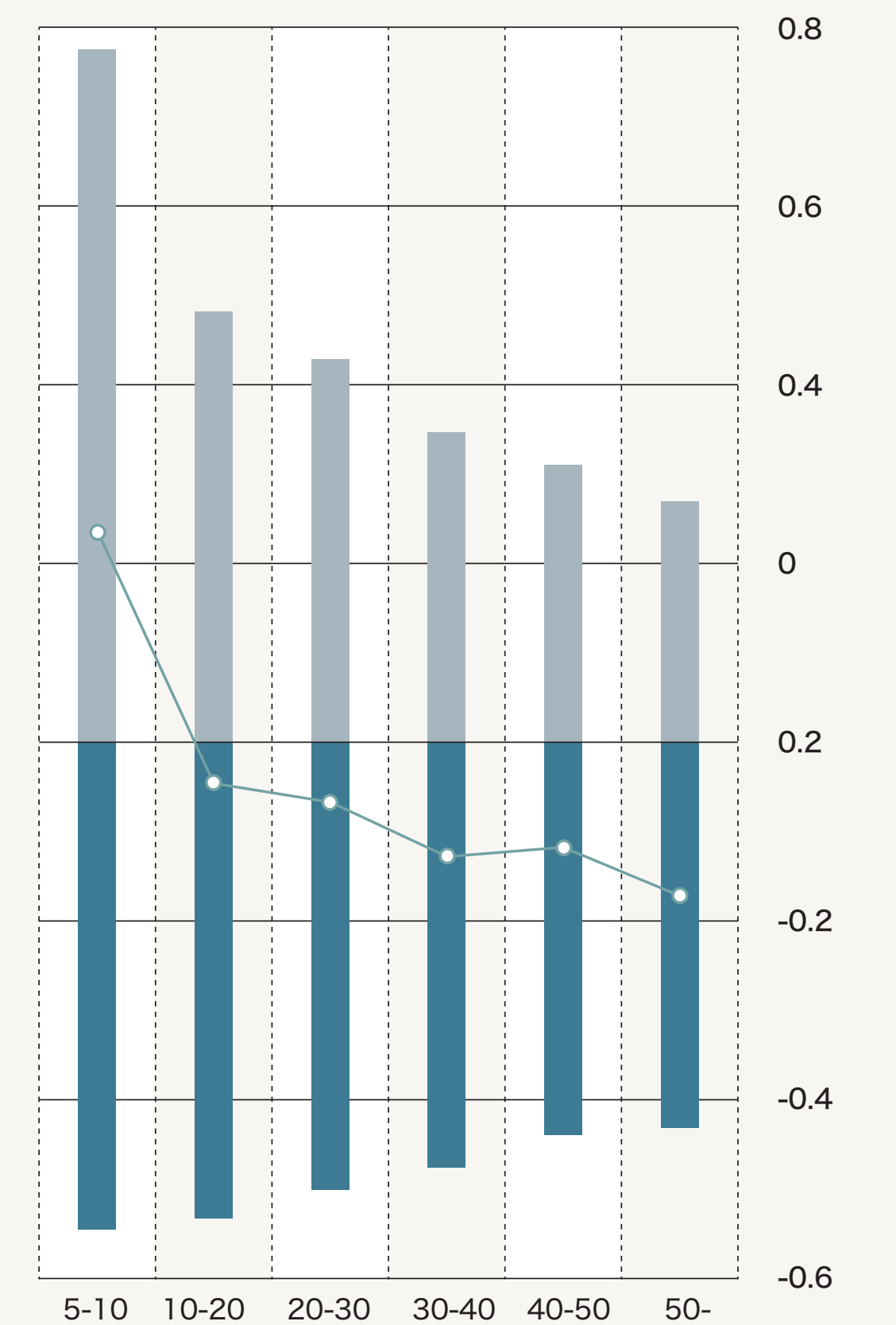
企業の社齢別に見た常用雇用の純増  
2001-2006年



2001-06年における  
常用雇用の変化

2006年  
における社齢

社齢と雇用創出・喪失率の関係  
2001-2006年



雇用喪失率  
雇用創出率  
雇用の純増率

2006年  
における社齢

出所:深尾京司・権赫旭(2010)「日本経済再生の原動力を求めて」



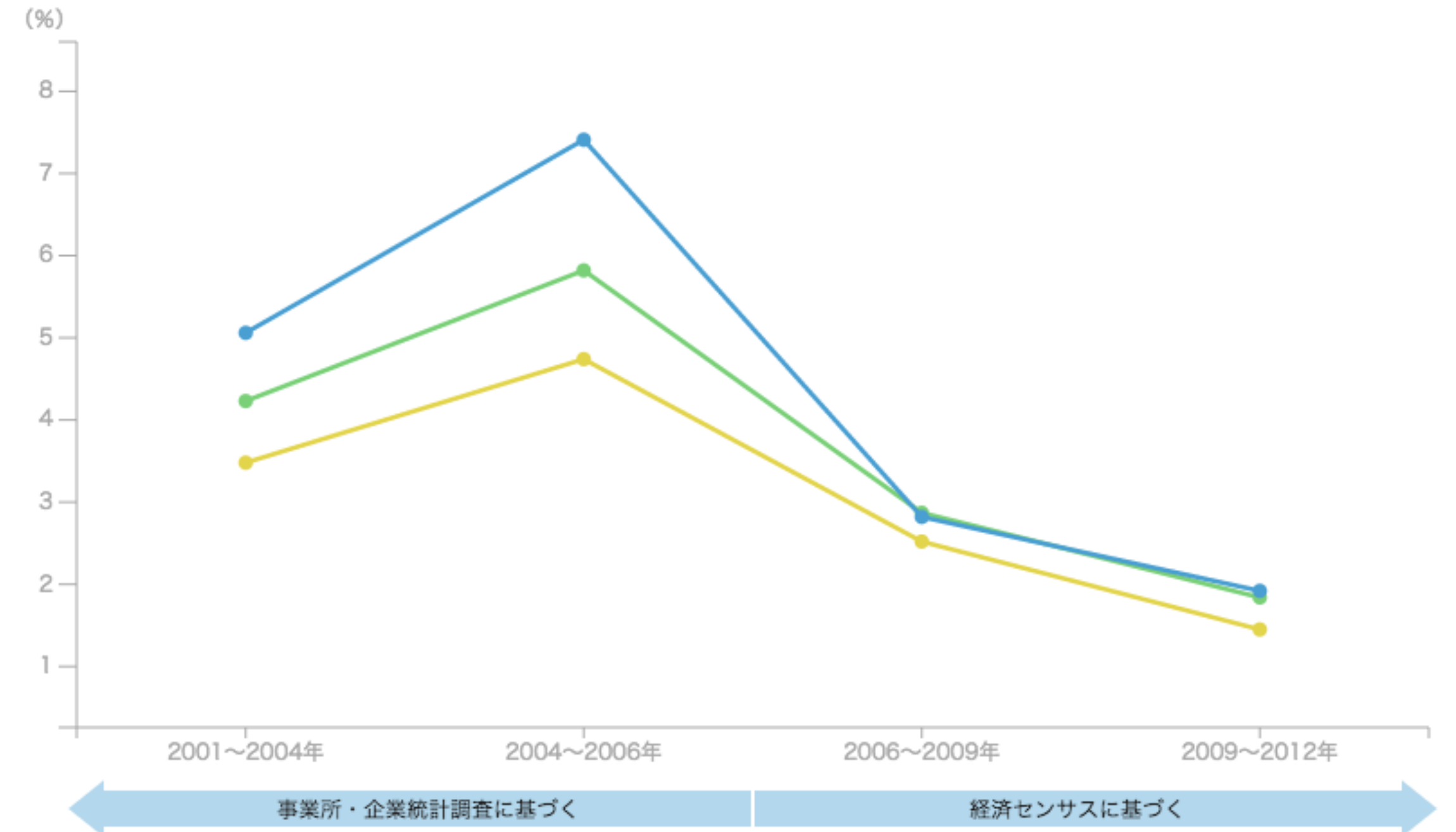
### 創業比率

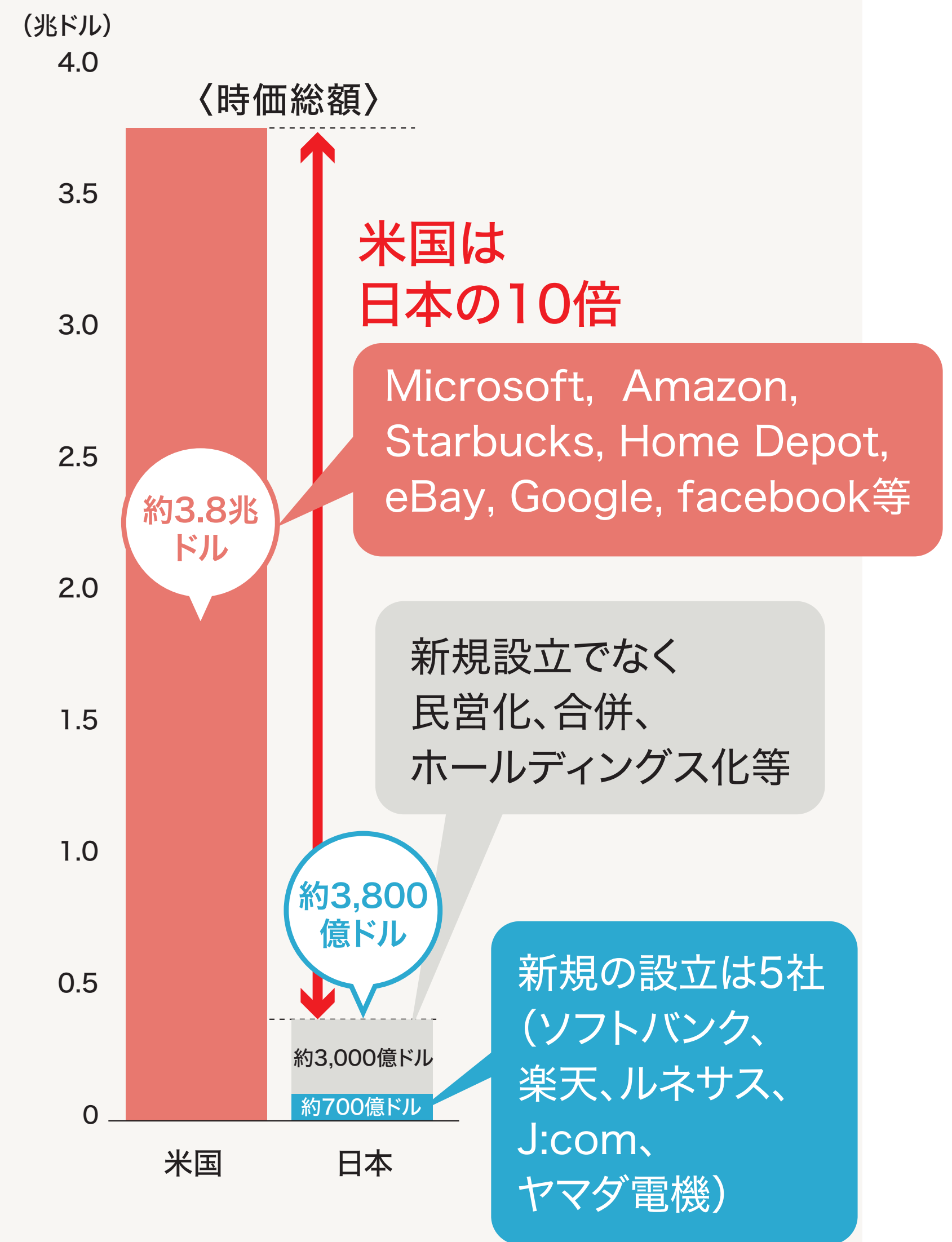
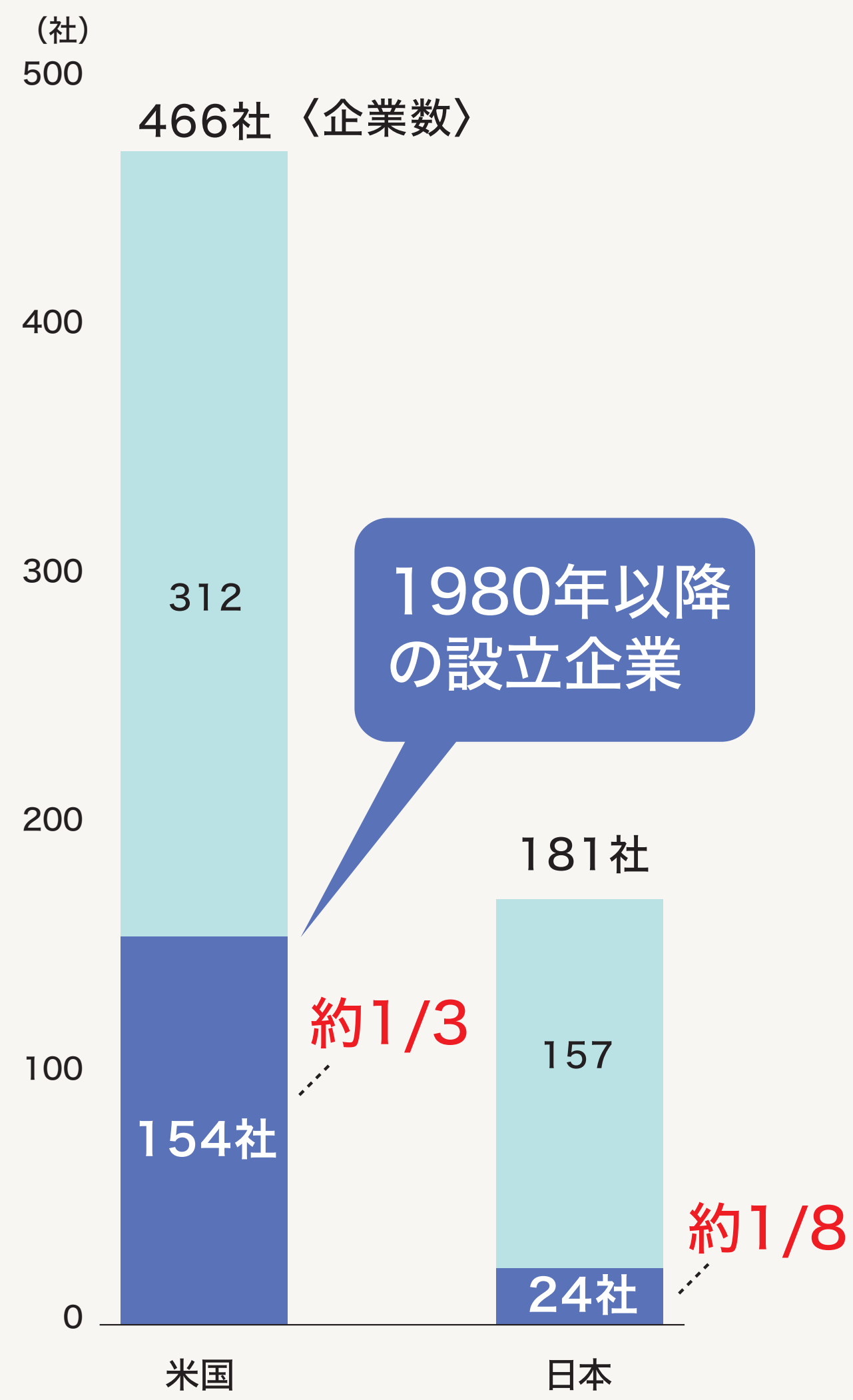
● 長野県上田市 ● 長野県平均 ● 全国平均



### 創業比率

● 長野県茅野市 ● 長野県平均 ● 全国平均

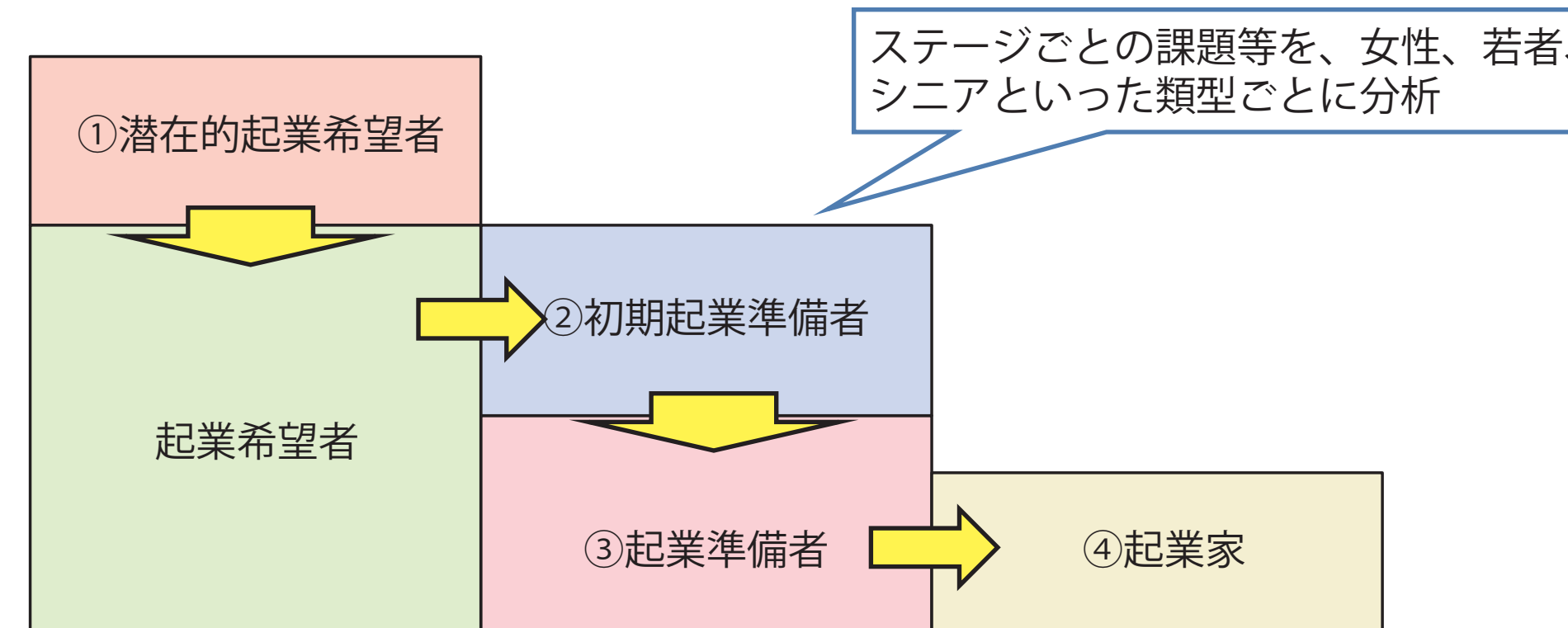




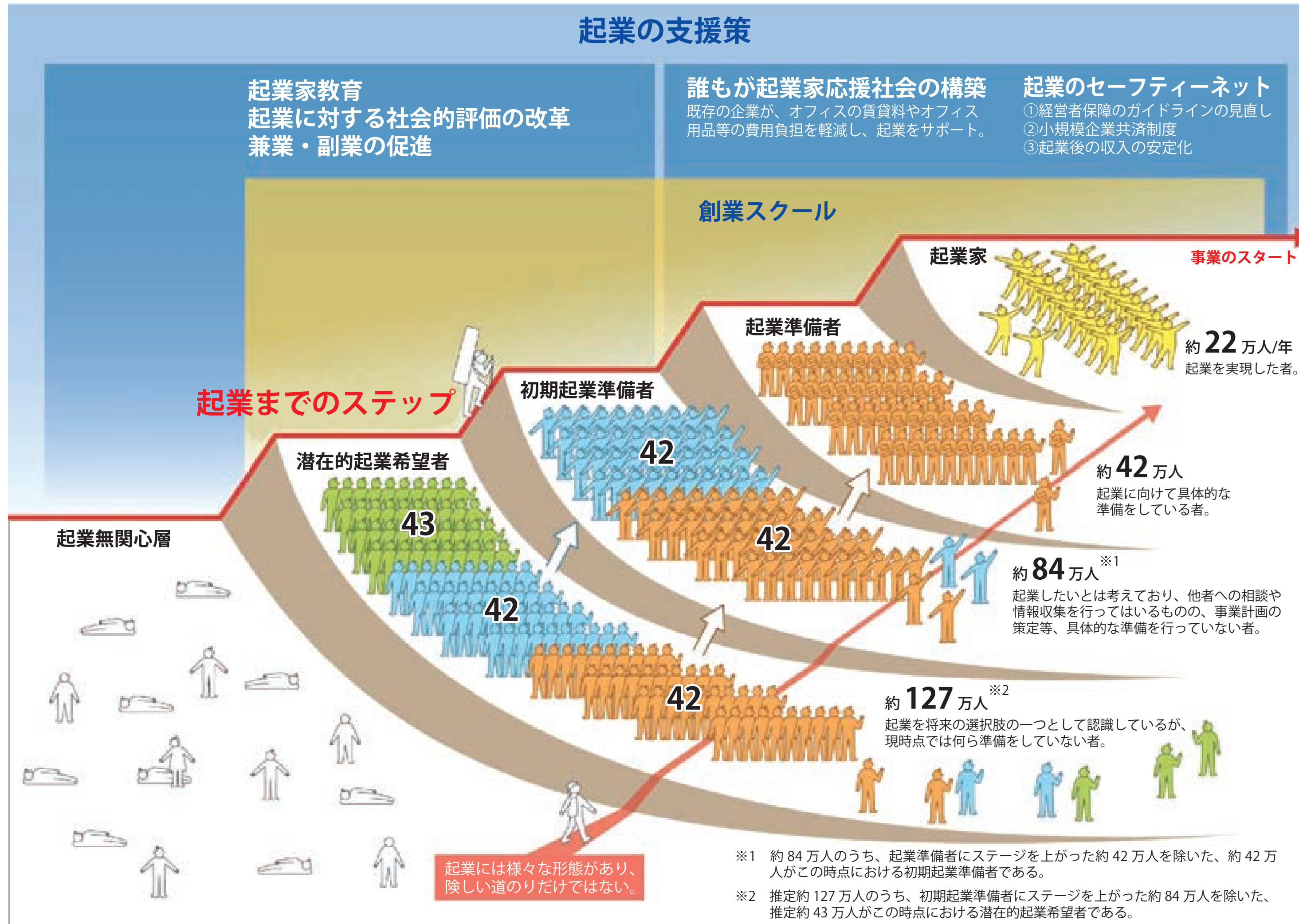
(資料) Forbes Global 2000 2013、ブルンバーグ、Financial Questのデータより作成。

第 3-2-11 図

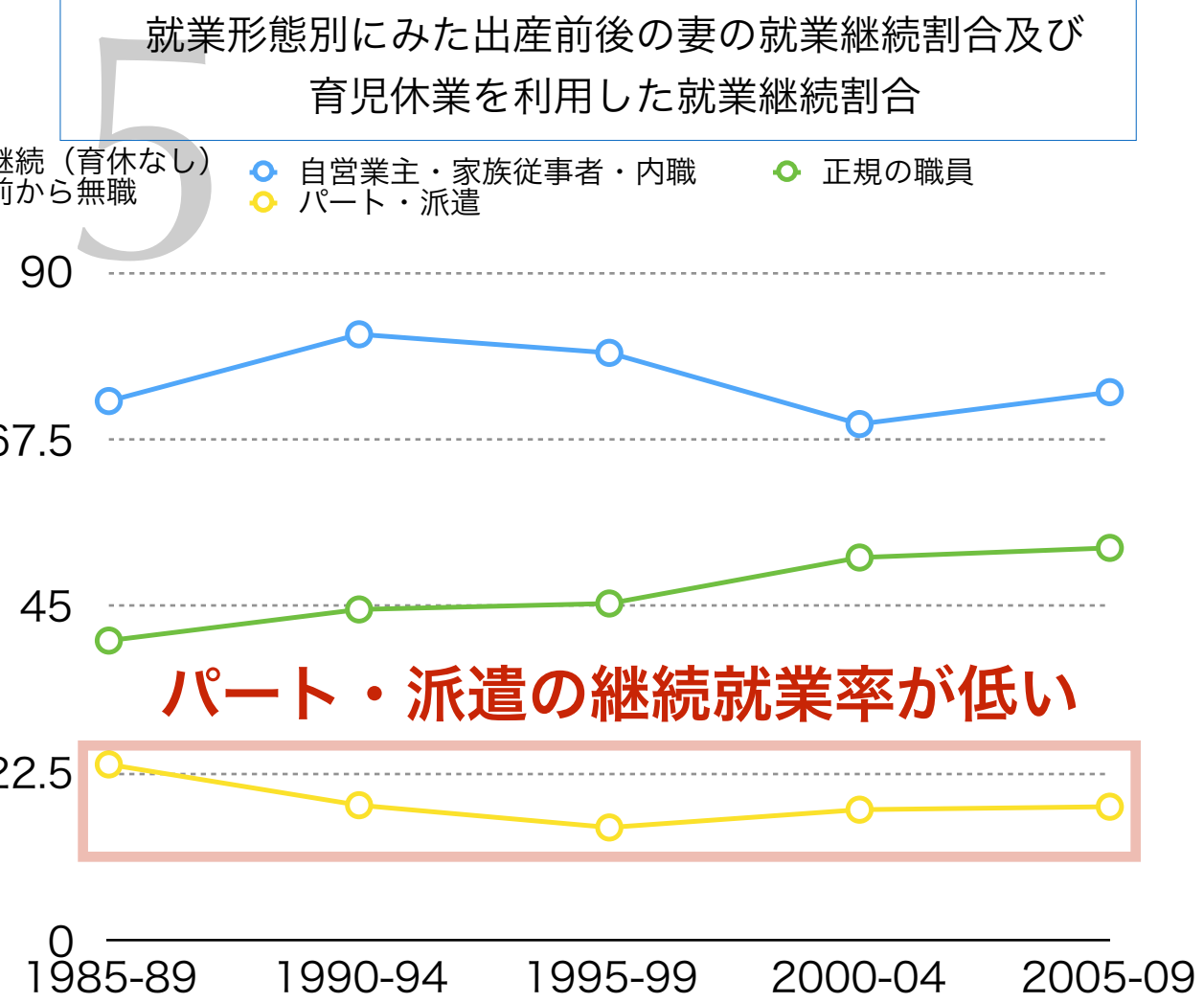
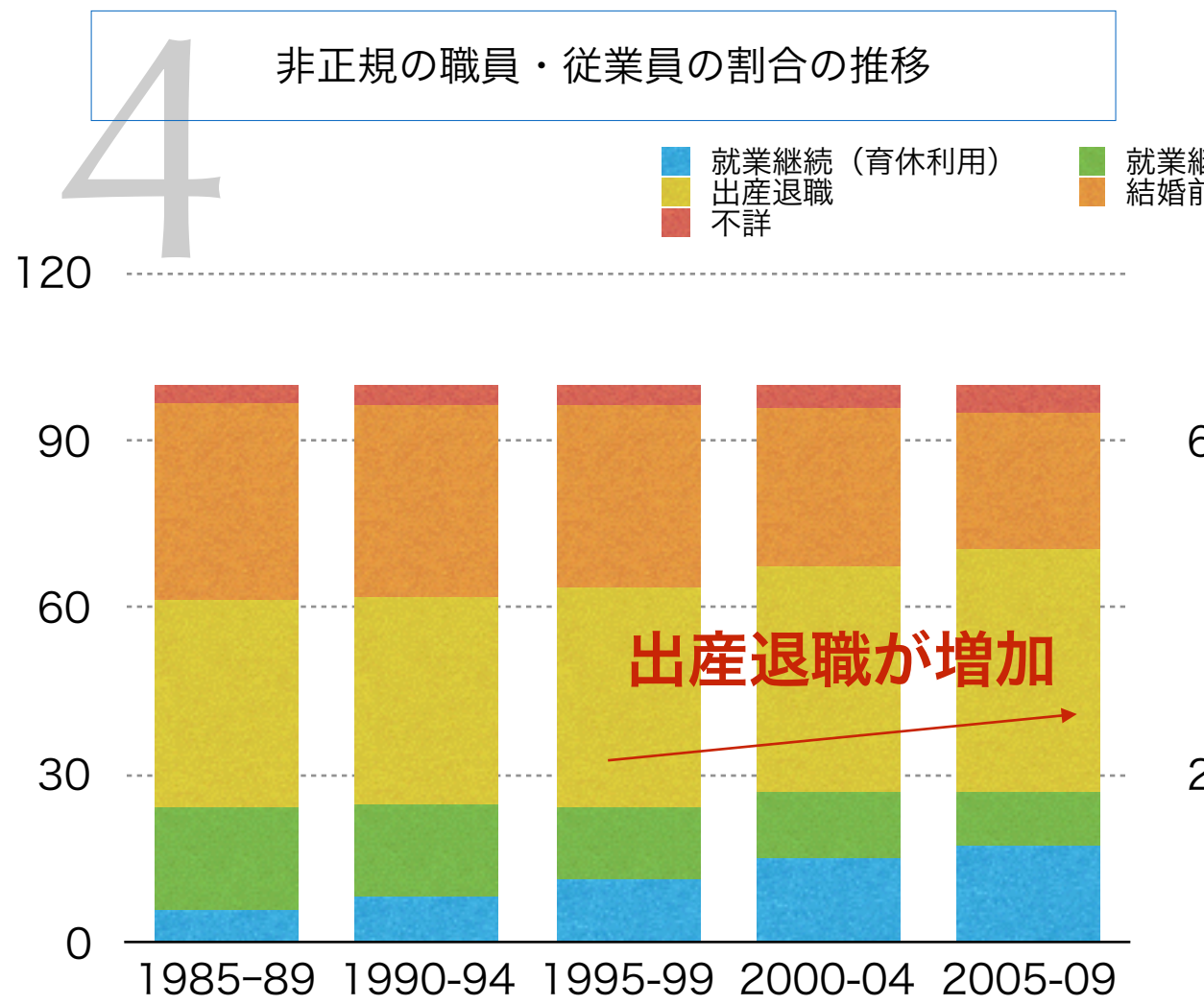
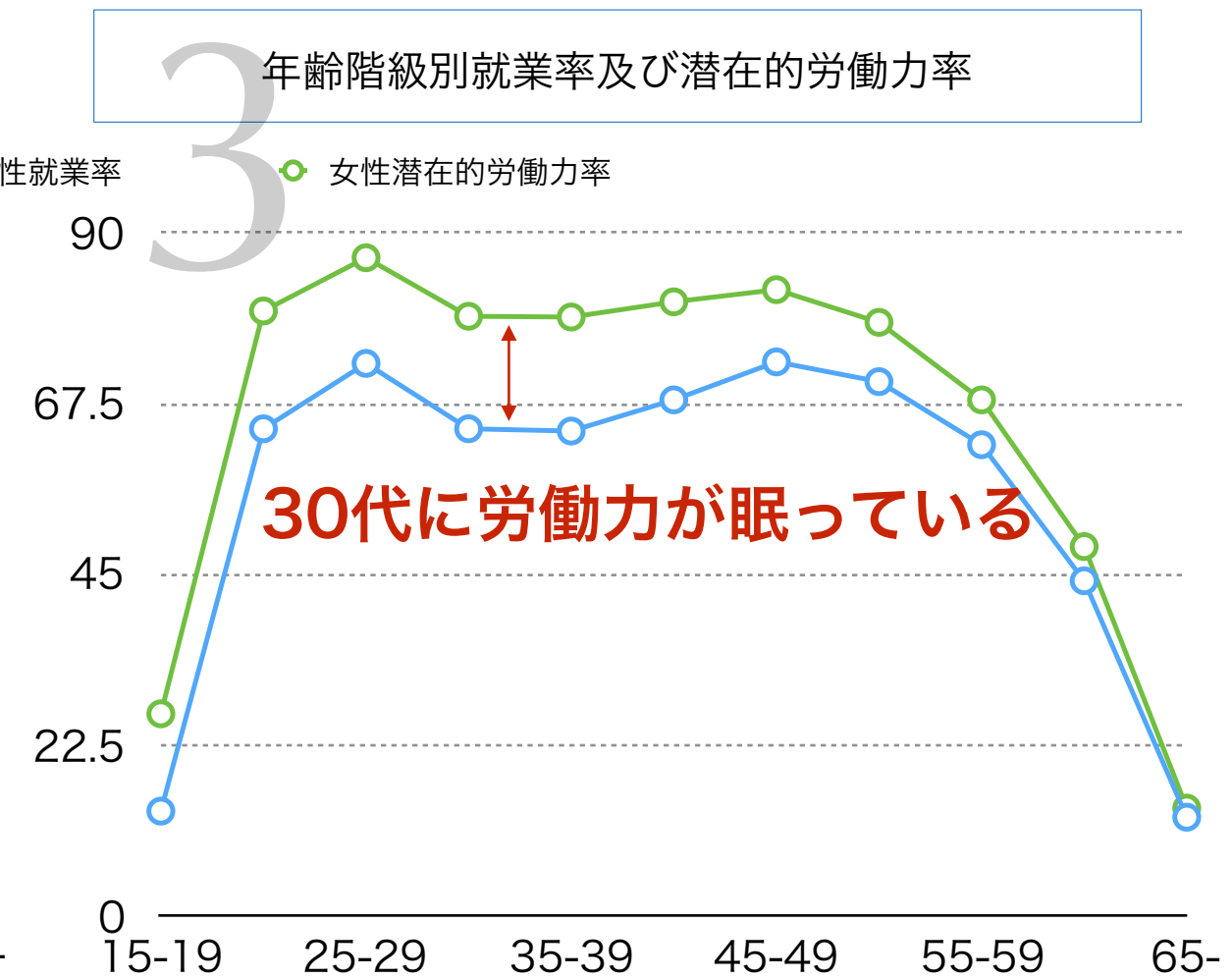
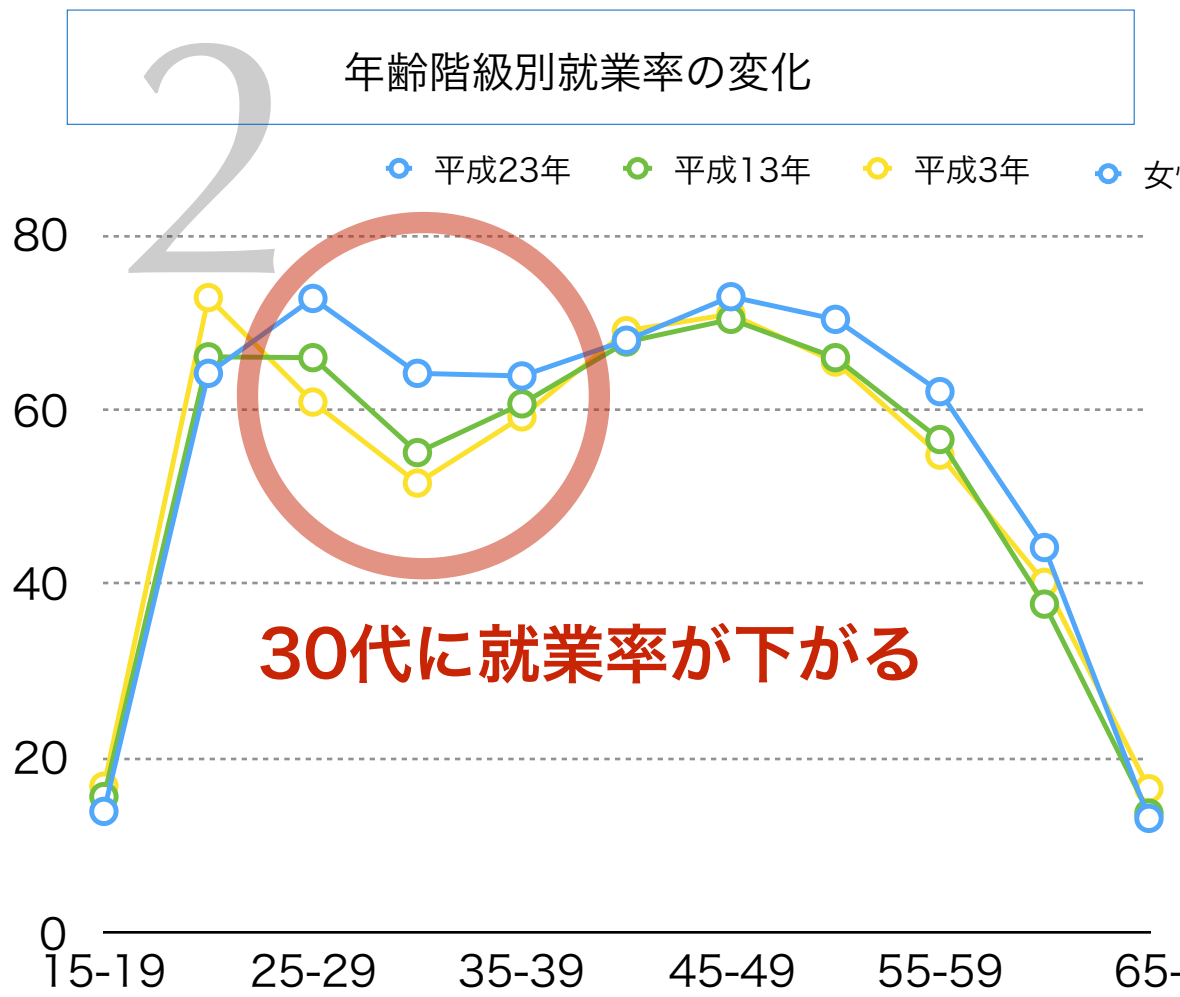
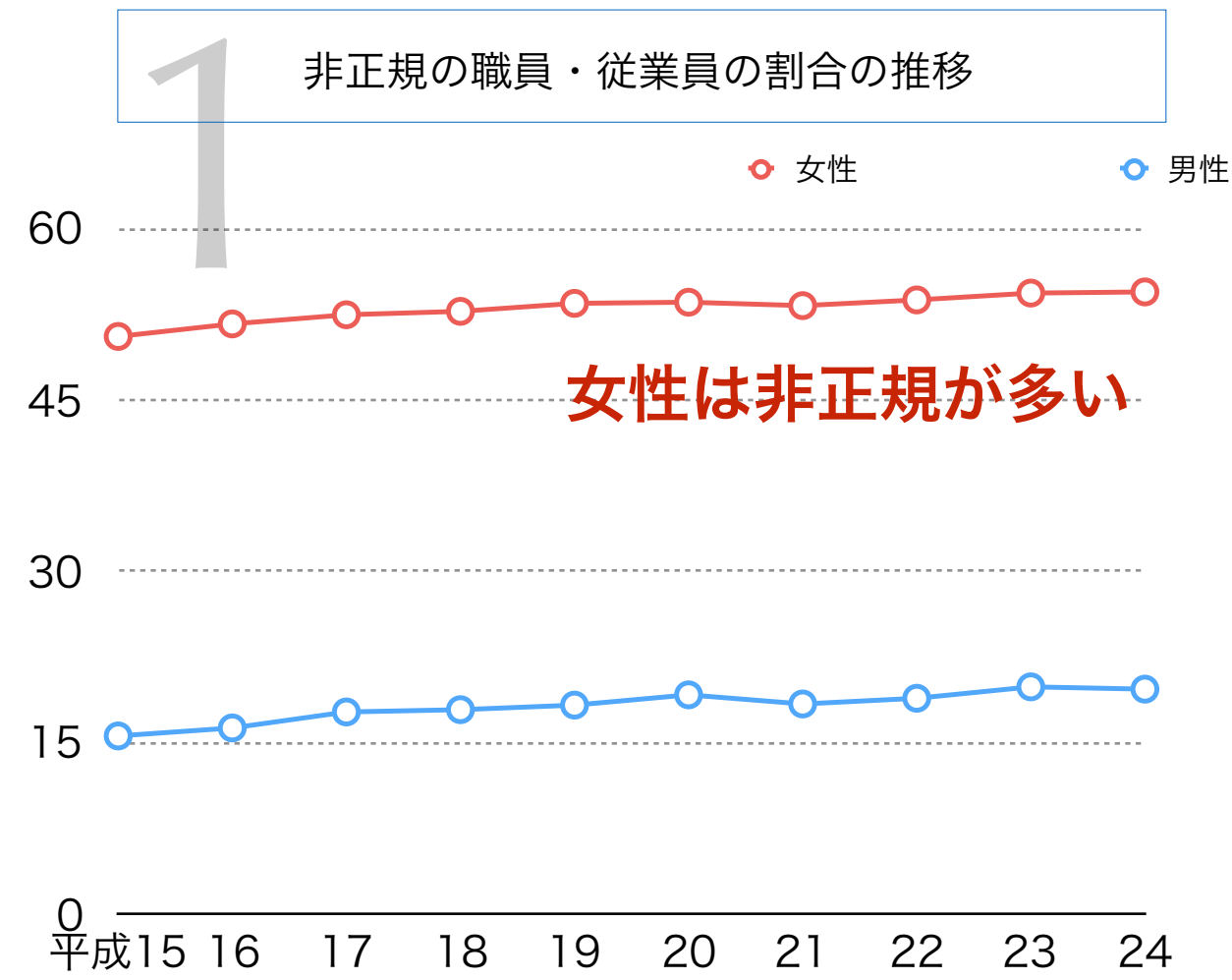
起業までの四つのステージ



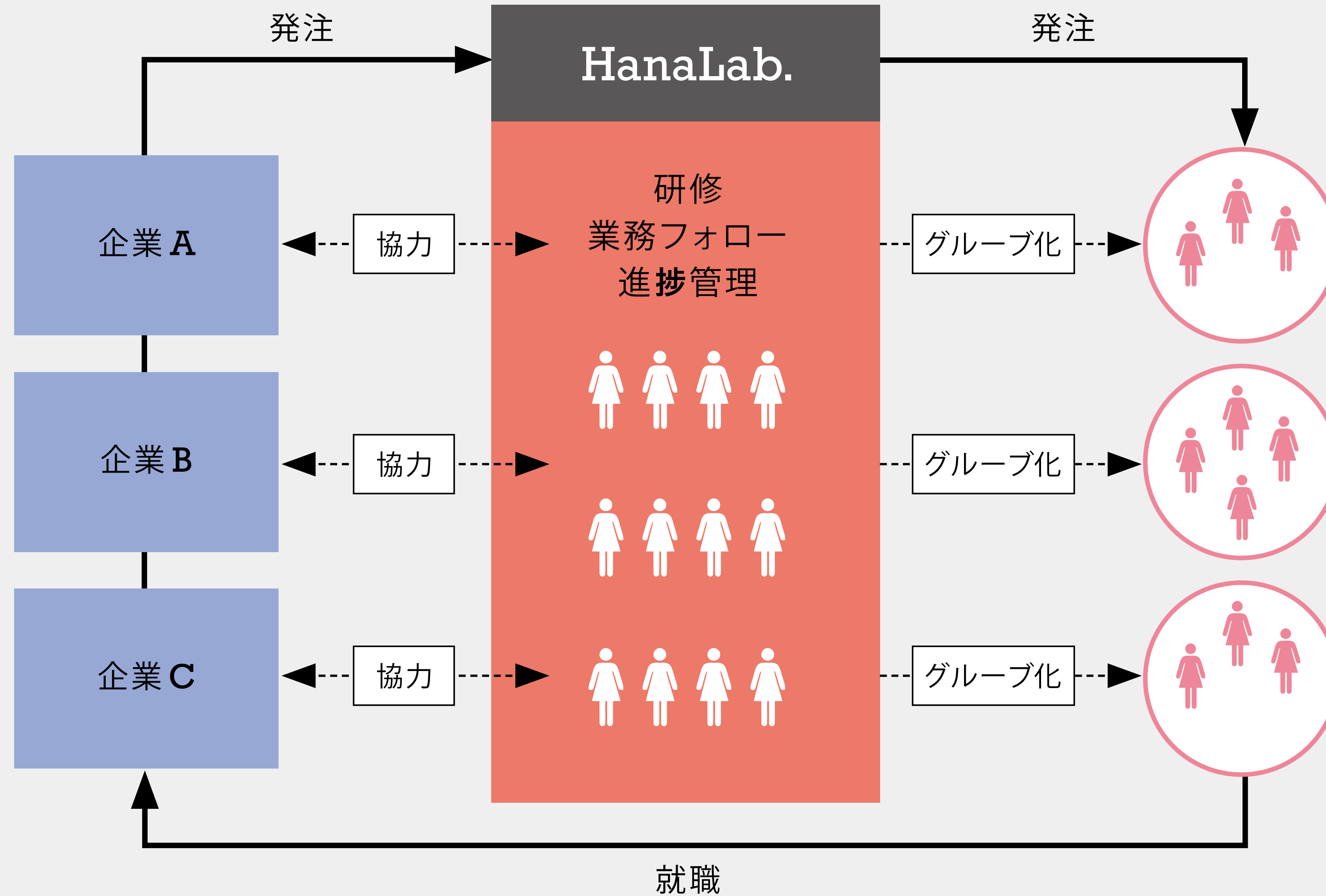
- ①潜在的起業希望者  
起業を将来の選択肢の一つとして認識しているが、現時点では何ら準備をしていない者
  - ②初期起業準備者  
起業したいとは考えており、他者への相談や情報収集を行ってはいるものの、事業計画の策定等、具体的な準備を行っていない者
  - ③起業準備者：起業に向けて具体的な準備をしている者
  - ④起業家：起業を実現した者
- 起業希望者



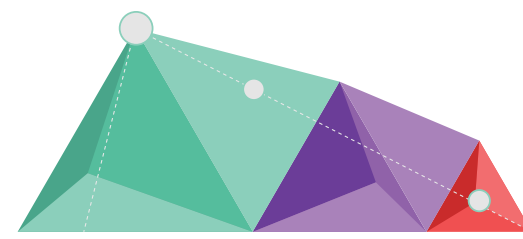
**働き手の育成・確保**



▶ 女性の活用モデル(mamacolor)



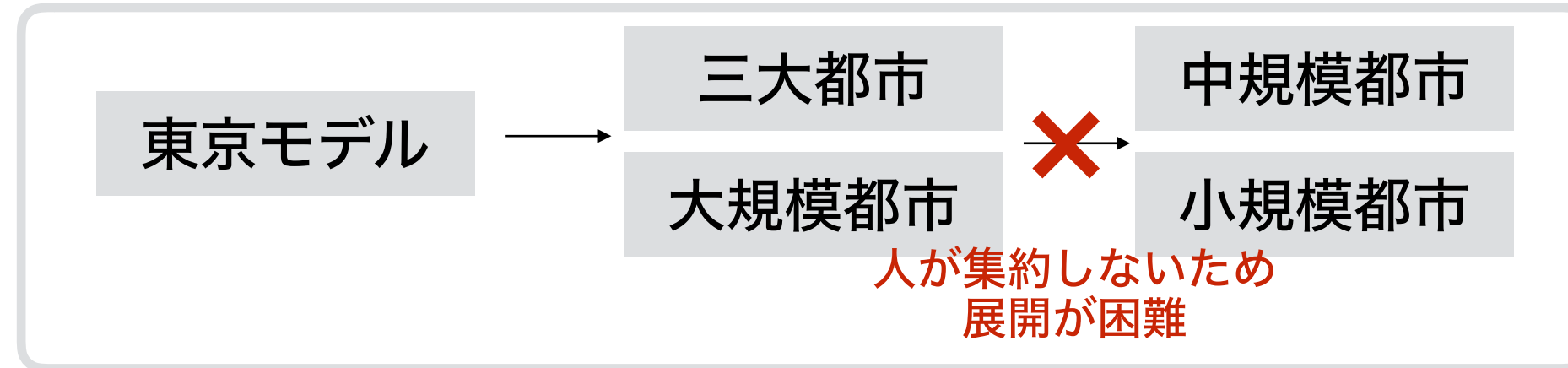




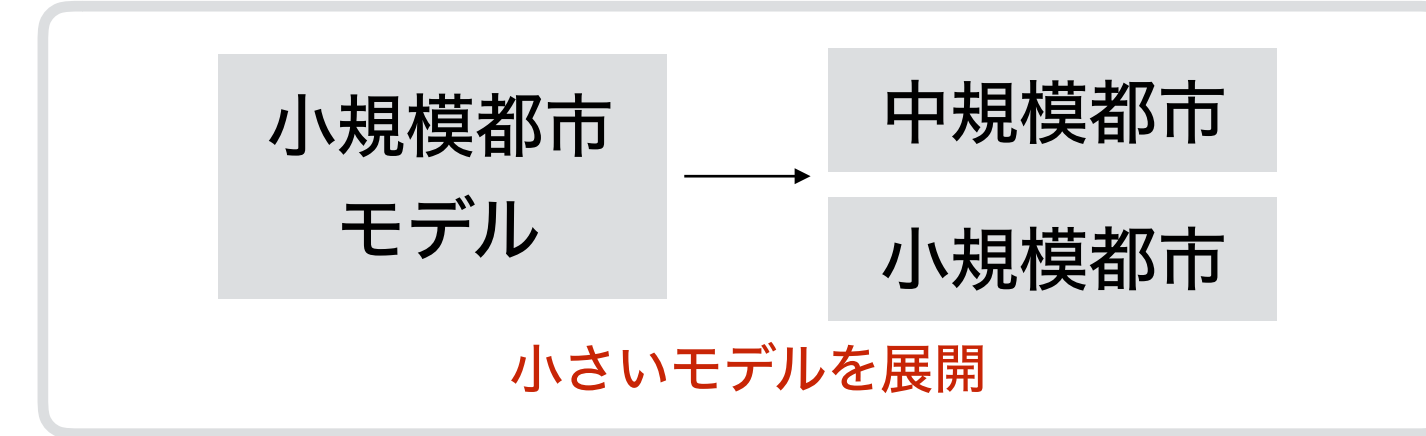
# 人材確保の着眼点

小規模都市の未開拓市場の可能性

## 東京→ローカルのモデル展開



## ローカル→ローカルのモデル展開



取組みが多く人材の取

<p><b>三大都市</b> (500万人以上)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル企業の拠点が集約</li> <li>・地域行政に加え、中央行政機能も持つ</li> <li>・国際競争力のある大学から教育特化型まで幅広い大学が立地</li> <li>・情報通信など高付加価値サービス業の産業構成比が高い。</li> </ul>
<p><b>大規模都市</b> (500 – 100万人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニ三大都市経済圏</li> <li>・旧帝國大学や歴史的商業、産業の集積地</li> <li>・商業、製造業及び不動産業の産業構成比が高い</li> </ul>
<p><b>中規模都市</b> (100 – 30万人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県庁など広域行政機能を持つ経済圏を多く含む</li> <li>・地方国立大学など研究拠点を持つ</li> <li>・商業、製造業に加え、医療福祉の産業構成比が高い</li> </ul>
<p><b>小規模都市</b> (30 – 10万人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域産業が中核となって経済圏を構成</li> <li>・製造業、商業、医療福祉の順に産業構成比が高いものが多い一方、農林水産、学術研究など、大中規模経済圏では現れない産業が産業構成比上位となる経済圏が存在</li> </ul>
<p><b>極小規模都市</b> (10万人未満)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口規模が小さく、今後かなりの人口減少が見込まれる</li> <li>・離島なども多い</li> <li>・商業、医療福祉の産業構成比が高いものが多い、製造業以外に農林漁業、建設業が構成比上位となる経済圏が多い。</li> </ul>
<p><b>限界都市</b> (1万人未満)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市雇用圏の定義に当てはまらない人口密度の低い地域</li> <li>・今後かなりの人口減少が見込まれる</li> <li>・一方、人口規模の小ささを活かして、地域一丸となった地域活性化に成功している地域も存在</li> </ul>

人材の奪い合い市場

未開拓市場

人材が少ない

### 小規模都市の良し悪し

第三都市によく見られる規模な町。程よい規模のため生活しやすい都市である。大学進学や就職の際に大都市か第一都市に人材が流出傾向にある。産業が下請け製造業の場合が多く、地域内の人材に偏りがあることも特徴。

#### メリット

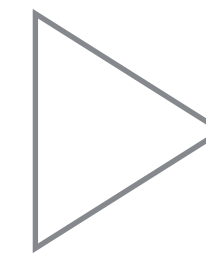
- ・ある程度の人口がいる。
- ・大中規模都市と比較して未開拓地
- ・産業構造が似ている都市が多く同規模の都市数も多いため、全国モデルにしやすい
- ・大学がある場合が多く、若者も一定数いる
- ・通勤時間が短い
- ・生活に必要な店・サービスが整っている

#### デメリット

- ・製造業比率が高く人材に偏りがあり、ITスキルレベルが低い傾向がある
- ・大きな1つのモデルが作りにくい
- ・育成モデルを構築する必要がある

# 支援額と支援数が反比例するモデル

## 正比例モデル



## 反比例モデル

